

## 1 山口県の農林業及び農林総合技術センターの現状と課題

### ■山口県農林業の現状と課題

本県の農林業の担い手の減少・高齢化が進む中、県では「担い手支援日本一」を掲げ、担い手の確保や、法人経営体の育成に努めてきました。今後も担い手支援を継続し、**就業先で即戦力となる人材育成**が必要です。

また、農林業の労働生産性は他産業に比べて低く、若者が農林業を職業として選択する上でのマイナス要因となっているという見方もあり、**生産性の向上は喫緊の課題**です。

### ■社会情勢の変化

近年、TPP等の国際貿易自由化の活性化や、国による米の生産調整の廃止など、**国内外の産地間競争の激化**が見込まれており、**農林業の競争力強化が急務**となっています。

一方、IoTやAI、ドローン等、急速に進化する**先端技術を農林業分野にも的確かつ迅速に導入**し、活用することが求められています。

### ■推進機関としての農林総合技術センター

本県農林業振興の推進機関である農林総合技術センターは、農林業の成長産業化に向けて、社会情勢の変化を踏まえ、**先端技術等の開発・導入**や、**それらを駆使できる人材の育成**に一層力を入れていくため、機能強化を図る必要があります。

◇担い手の減少・高齢化や産地間競争の激化  
◇急速に進化する先端技術は農林業分野にも進展  
⇒これらの状況に迅速かつ確に対応し、競争力強化が必要

先端技術の開発と、高度な技術を持つ即戦力人材の育成に一体的に取り組むことが必要

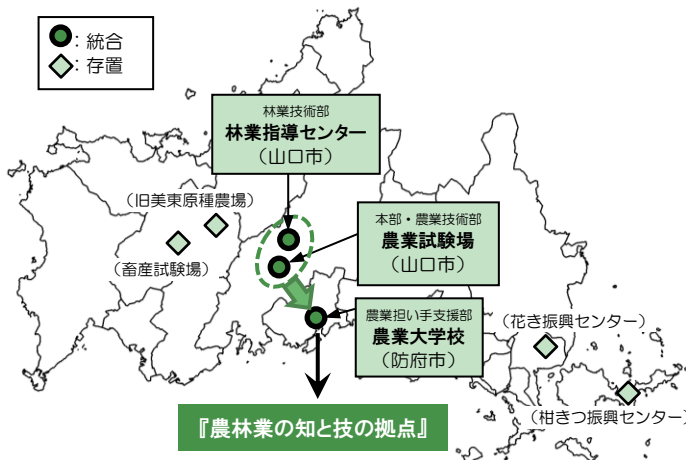
農業大学校や農業試験場等を統合した「農林業の知と技の拠点」を形成

## 2 「農林業の知と技の拠点」の形成

### ■拠点への統合対象施設

農業・林業の振興に向けた機能強化の観点や、各施設の近隣産地との関係、立地環境、業務の特殊性等を考慮の上、**統合対象は以下の3施設**とします。

- **農業試験場**（山口市大内氷上、大内長野）
- **農業大学校**（防府市牟礼）
- **林業指導センター**（山口市宮野上）



### ■統合の場所

- ・道路や鉄道等、県央の交通の要衝に位置し、県民の利便性が高い
- ・瀬戸内産業集積地域と近接し、研究面における企業との連携が深まることが期待できる
- ・山林を有し、林業研修施設の設置が可能
- ・農業大学校本館や、移住就農促進センターなど、既存施設の有効活用が可能

研究用ほ場の確保等の課題はありますが、農業試験場の誘致を要望している防府市と協力しながら解決を図ることとし、総合的な判断として、**拠点は防府市の農業大学校敷地を中心に形成することとします。**

### ■拠点整備の内容

- 拠点機能を発揮するため、以下の施設等を新たに整備します。
- ・『**新本館**』：研究部門と教育部門が一体となった知と技の拠点
  - ・『**連携・交流館**』：県民に開かれた農産加工施設（オープンラボ）などを設置する連携・交流の拠点

総合調整機能を強化し、農林業の様々な相談や、企業・大学・県民等との連携に対応します。

### ■拠点の整備計画

変動の激しい社会情勢にスピード感をもって対応するため、新拠点は**2022年4月からの供用開始**を目指して整備します。

#### 整備年次計画

| 2018年度 | 2019年度  | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度       |
|--------|---------|--------|--------|--------------|
|        | 基本・実施設計 |        |        |              |
|        |         | 土木工事   |        |              |
|        |         |        | 付帯施設整備 |              |
|        |         |        |        | 新築工事         |
|        |         |        |        | 供用開始<br>(予定) |

### ■整備事業費

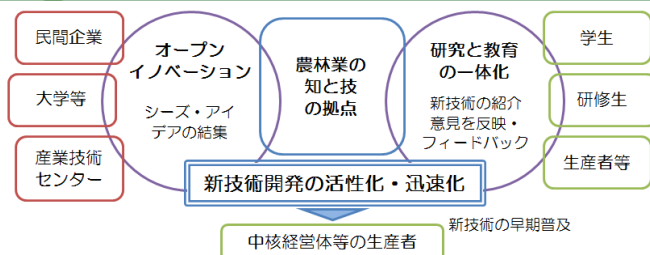
拠点整備関連の総事業費は約45～50億円と見込まれます。  
※2018年11月時点の試算  
※移転する施設の解体撤去費等は別途検討  
なお、効率的かつ効果的な予算執行により、経費削減に努めます。

### 3 拠点における新たな取組

#### ■オープンイノベーションと研究・教育の一体化による新技術開発の活性化

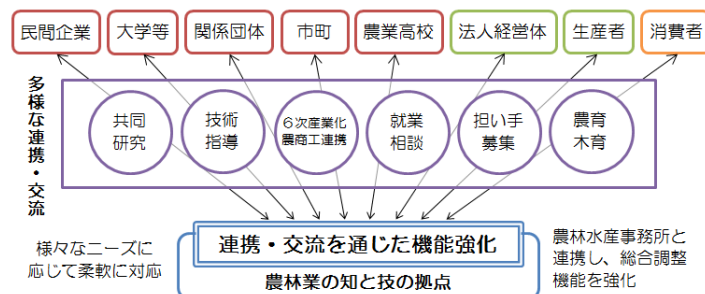
- ◆県内外の企業や大学などと積極的に連携し、**オープンイノベーション**を推進
- ◆研究成果をいち早く実証するなど、**研究と教育の一体化**による開発の活性化
- 本県の特성에応じた先端技術を活用した省力化・低コスト技術の開発**
  - ・スマート農機やIoT等を活用した、大規模経営向け「超省力技術」の実用化
  - ・イチゴやトマトの収量や品質を飛躍的に向上させる「環境制御システム」の開発・実用化
  - ・ベテラン農家の技術を実践できる「農の匠の技」のシステム化
  - ・ICT等先端技術を活用した有害鳥獣捕獲・防護技術の開発実証
  - ・高性能林業機械やICT等先端技術の導入による効率的な林業経営技術の開発
- 高付加価値品種等、所得向上につながる技術の開発**
  - ・需要に対応した、味や品質に優れる高付加価値園芸品種の開発普及
  - ・成長の早い樹種の導入による低コスト再造林技術の確立

期待される効果 所得の飛躍的の向上や更なる規模拡大、集落の活性化を実現！



#### ■大学・企業・生産者・県民等との新しい連携・交流

- ◆新たな研究開発や人材育成につなげるため、**多様な主体と幅広く連携や交流**を推進
- ◆**総合調整機能を強化**し、県民にとって開かれた「**農林業の知と技の拠点**」に
- 農林業の総合相談・情報発信機能の設置**
  - ・企業や大学との共同研究や実証・普及などをコーディネート
  - ・市町等と連携し、募集～教育・研修～就業～定着～リカレント教育まで、一貫サポート
  - ・やまぐち6次産業化・農商工連携サポートセンターと連携した6次産業化等の支援
  - ・研究成果や教育成果、求人情報など情報発信の強化
- 産学公連携の更なる推進**
  - ・企業、大学、JA、市町等との連携を促進し、研究・研修両面の機能を充実
- 生産者、消費者等との連携・交流の場の創設**
  - ・県内市町との連携による農林業イベント等を通じ、県民との交流を深め農林業への理解を促進
  - ・新商品開発に向けた試作等が実施できる「オープンラボ」を設置し、6次産業化等を活性化



期待される効果 連携・交流の促進により拠点の魅力を高め、更に機能強化！

「農林業の知と技の拠点」が、その機能を発揮することで、生産者の所得向上を実現し、若者が魅力を感じる農林業を展開することにより、**農林業に雇用と活力を創出**します。

**本県農業・林業の成長産業化の実現**